

# 日本語におけるナ形容詞と それに対応する同形中国語との差異

——「主要」をめぐる——

馮 元

キーワード：ナ形容詞、同形語、差異、対照研究

## 要 旨

本稿は、日本語のナ形容詞である「主要」と、それに対応する同形中国語を考察対象とし、対照的に分析したものである。意味、機能、コロケーション情報という三つの角度から、両者の相違について分析を試みた。その結果、中国語の“主要”のほうが日本語の「主要」より表せる意味範疇が広いことがわかった。また、日本語の場合、連体修飾語として使われることが多いのに対し、中国語の方は連用修飾語として使われることが多い。コロケーション情報においても差異が見られた。

## 1. はじめに

周知の通り、日本語と中国語には、「普通」と“普通”<sup>1</sup>のような「同形語」(大塚1990)が存在しており、その数は、決して少なくない。一見、このような「同形語」の存在は、中国人日本語学習者に利便性をもたらすが、果たしてそればかりと言えるだろうか。本稿はケーススタディとして《総合日語第一冊》<sup>2</sup>に含まれている日本語のナ形容詞である「主要」<sup>3</sup>と、それに対応する同形中国語である“主要”を対象と

<sup>1</sup> 本稿では、日本語は「」で表記し、中国語は“”で表記する。

<sup>2</sup> 北京大学から発行される多くの中国の大学が使用している教科書である。

<sup>3</sup> ここでの表記は《総合日語第一冊》における表記に従っている。

し、それらの意味や用法について分析するものである。

ここ十年来、日本語と中国語の同形語に関する研究も進んではいるが、同形形容詞についてはまだ手薄な領域であるように感じる。対照研究を通じて、日本語と中国語の形容詞の相違点が明らかになることはもちろんのこと、それぞれの特徴も明らかになることが期待される。日本語の形容詞と中国語の形容詞は言語の一形式として、共通点もありながら、相違点もある。本稿は、意味、機能、コロケーション情報という三つの角度から、両者の相違について分析を試みたいと思う。

## 2. 先行研究

本稿とかかわる先行研究は数多くあるが、概ね以下のように3分類することができる。

### 2.1 意味上の対照研究

日本文化庁（1978）は意味を基準に日中同形語を研究した代表的かつ先駆的な研究と言えるだろう。日本文化庁（1978）は、初級及び中級の教科書から1882語の漢語を抽出し、対応する中国語にある同形語との関係を『現代日中辞典』（光生館）及び『現代日中辞典』増訂版（光生館）を参照の上、分析している。その結果、日中同形語を意味の角度から次の4種に分類している。

S(Same)：同形同義語

O(Overlap)：同形類義語

D(Different)：同形異義語

N(Nothing)：日本語にあるが中国語にない語。

日本文化庁（1978）における分類は、語彙対によって所属について再検討する余地もあるものの、後続する多くの研究が参考にしており、日中同形語研究の発展に大きな意義をもたらしたと言える。

なお、大塚秀明（1990）は日本文化庁（1978）が使用している辞書やインフォマントの信頼性を問題点とし、同論の記述の再分析を行っている。具体的には《現代漢語八百詞》と《現代漢語詞典》を用いて日本文化庁（1978）の妥当でない記述を補充・訂正する一方で、そうした分類にのみこだわるのは有益でない指摘し、言葉の

意味分析の例を示している。大塚(1990)が示した参考例では、まず二者それぞれの意味を説明し、次に二者の相違点を述べ、最後に誤用例を挙げるという方法が採られている。大塚(1990)はその後の同形語研究や辞書類の構築に大きな影響を与えたと考えられる。

中国国内では、日中同形語について、まとまった研究が施建军(2009)から徐々に盛んになってきた。施建军(2009)は、“注目”を例として、コーパス言語学の観点から日中同形語の意味用法を分析している。その結果、“注目”(「注目」)という言葉は最初に中国で使われ始め、後に日本語に伝わったが、現代では、日本語における「注目」の使用頻度のほうが中国語における“注目”の使用頻度より高く、使用パターンもはるかに多いと述べている。

また、施建军・洪洁(2013)は日中同形語について、体系的な研究がないことを指摘し、コーパスに基づいて、日中同形語の意味用法の相違点を明らかにするために、どのような方面から考察すべきか論じている。その結果、日中同形語の相違は、意味、品詞性、文法機能、共起語彙という4つの方面に現れていることを指摘している。

一方、洪洁(2016)は日中同形語について、意味用法や文法機能の相違点を考察した先行研究は少なくないものの、日中对訳の観点から行った研究がないと述べ、対訳の観点から意味上の類似性を考察している。特に、同形類義語を分析した結果、「共起関係>文体的特徴>文法機能>品詞性」の順番で同形語対訳への影響が徐々に少なくなるということを指摘している。

さらに、施建军・洪洁(2017)は辞書をデータとして用いるため、考察対象が数量的に限られるというそれまでの先行研究の問題点を指摘し、コーパスに基づいて調査を行っている。具体的には、日中同形語それぞれの共起語彙から両者の意味上の類似点と相違点を考察した結果、修飾語彙の範疇や、抽象的か具体的か、積極的か消極的かなどの面で差異があると述べている。

## 2.2 誤用分析

誤用分析に関する先行研究では、日中同形語についての意味・用法の誤りを集めて、誤用例を一つずつ対照的に分析するものが多く見られる。本稿はそのような観点から考察を行うものではないため、誤用分析に関する先行研究は簡単に紹介することと定める。

菱沼透(1980)は、漢字、漢語を媒介とするか、しないかという観点から中国人日本語学習者の誤用例を取り上げ、特に日中同形語を中国語の意味で日本語の文中に使

ってしまった誤用が多いことを指摘している。但し、具体的な数字、比率などの記述は行っていない。

また、淡島成高（1987a,b）は菱沼透（1980）の問題点を踏まえた上、中国における日本語学科の大学生の作文から、240例の誤用を抽出し、誤用の原因を分析している。その結果、母語である中国語の影響による誤用例が全体の94%を占めていると述べている。

さらに、安藤美保（2012）は日本語専攻の大学生が書いた作文678篇をもとに作成したコーパスから「形容詞/形容動詞+名詞」「名詞+助詞+形容詞/形容動詞」の表現を抽出し、中国人の日本語上級学習者の習得状況を分析している。その結果、1、2年生で学習する語彙でも共起語の習得は遅れていることや、中国語の言い方をそのまま日本語に置き換えてしまう誤用が多いことなどを指摘している。

### 2.3 定義、文法機能などの研究

大河内康憲（1992）は日中同形語とはどのような語彙かという問題について、それらの差異及び差異が存在する原因などの観点から考察している。その上で、意味や用法だけでなく、感情・色彩の捉え方に関しても日本と中国では相違点が見られることを指摘している。一方、翟东娜（2000）は感情・色彩表現に着目して日中同形語の差異を分析し、その背景に社会や文化の影響があることを指摘している。

また、梁玥（2008）は文法機能の観点から日中同形形容詞を研究し、両者とも連体修飾語と述語になるが、日本語の形容詞は連体修飾語となることが多いのに対し、中国語の形容詞は述語になることが多いと述べている。また、日本語の形容詞は連用修飾語としても使われるが、中国語の形容詞は連用修飾語としてはあまり使われていないことを指摘している。

さらに、施建军（2014）はコーパス言語学の立場から日中同形語の分類を考え直し、「日中同形類義語は意味用法相違の大小によって、同義と異義を両端とした一本の連続的な直線に並べられる」と述べている。また、そのような分類を実際に行う際の方法について検討した結果、対訳コーパスから同形語の対訳数を集計した上で同形語の対訳を反映できる対訳係数を算出し、また、その対訳係数をもって同形語の意味用法の距離を精密に推し量るという計量的な方法を提示している。

以上のように、日中同形語についての研究は盛んに進められているが、その背景には、日本語と中国語で相違点も多くあるため、母語の影響から、中国人が日本語を学習する際にしばしば誤用を起こすことがあると考えられる。誤用を引き起こすという

ことは日本語教育において重要な問題であるということである。それゆえ、多くの大学が使用している教科書をもとにまず日中同形語に関する日本語教育の現状を踏まえた研究が必要である。

### 3. 分析

本稿は、日本語教育の角度から、特に多くの大学が使用している教科書である《総合日语第一册》を考察対象とし、そこに含まれるナ形容詞「主要」を例に取り上げた。教材の正確性は日本語教育において重要な役割を果たしている。本稿の調査は、テキストにおいて、単語に関する説明に不十分な点があると感じたことがきっかけであった。

まず、日本語辞書と中国語辞書における語釈を比較する。その際、日本語の辞書は『新明解国語辞典』（第七版）を、中国語の辞書は『現代汉语词典』を、それぞれ用いる。また次に、コーパス調査を通して、具体例を抽出し、日中同形語それぞれのコロケーション情報、文法機能などを見る。対象とするコーパスとして、日本語については「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を、中国語については「現代汉语语料库」（BCC コーパス）を、両言語の対訳については「中日対訳コーパス」を、それぞれ用いる。

《総合日语第一册》における「主要」に対する中国語訳：主要。

このような解釈は「主要」と“主要”が全く同じであると言っているとれるが、果たしてそうだろうか。次に、それぞれが辞書でどのように述べられているのかを見る。『新明解国語辞典』では、日本語の「主要」について「全体の中でそれだけは欠くことが出来ない大切なこと（様子）」と述べられている。一方、『現代汉语词典』では、中国語の“主要”について「有关事物中最重要，起决定作用的」と述べられている。このように、辞書での解釈を見ても、両者には相違点があまりないように感じられる。また、日本文化庁（1978）も「政治上主要な人物。政治上的主要人物」という例を挙げ、両者を同形同義語として扱っている。

以上のように、テキスト・辞書・先行研究の3者を通して両者の差異は見られていないが、本稿はコーパスを対象に、実際に使われているデータに基づいて両者に差異があるか否かを検証する。

まず、コーパスにおいて観察される例文を通して文法的機能を見る。日本語側で「主要」を検索したところ、5346例が確認された。そのうち、連体修飾機能を担う

「主要な」は 1793 例、「主要の」は 2 例であり、全体の 33.6%を占めていた。また、述語機能を担う「主要で」は 6 例、「主要だ」は 0 例であり、連用修飾機能を担う「主要に」は 10 例であった。同様に、中国語側で“主要”を検索したところ、556848 例が確認された。そのうち、連体修飾機能の“主要的”は 26513 例であり、全体の 4.8%を占めていた。また、述語機能については、“主要。”が 92 例、“主要，”が 169 例、“主要！”が 11 例、“主要的。”が 457 例、“主要的，”が 969 例、“主要的！”が 13 例、“主要吗”が 1 例、“主要吧”が 5 例であり、全体で 1717 例見られた。なお、連用修飾機能について、“主要地”で検索したところ、1190 例が確認された。但し、その中には一部、例外も含まれていたため、そのような場合は排除した。例えば、“主要”＋“地位”という例も“主要地”で検索した 1190 例の中に含まれている。以下の表はそのような例外であり、連用修飾機能を持っている“地”ではなく、“地位”などのような名詞の一部であったものである。

表 1 主要の後ろに続くコロケーション情報—“地”で始まる名詞

| 語彙 | 地位  | 地区  | 地方 | 地点 | 地段 | 地质 | 地带 | 地下 | 地域 | 地铁 | 地貌 | 地产 | 地盘 | 地震 | 地面 | 地理 |
|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 数  | 363 | 163 | 69 | 48 | 47 | 31 | 11 | 7  | 7  | 6  | 5  | 5  | 4  | 4  | 4  | 3  |

このように、“主要地”の数のみで連用修飾機能のパターンが最も多いとは言いきれないことがわかった。しかしながら、確実に連用修飾機能をもつ“主要是”で検索したところ、80164 例が得られた。

日本語にも中国語にも「主要＋名詞」というパターンが最も多く見られるが、以上の出現傾向から見ると、日本語の「主要」は連体修飾語として使われることが多いのに対し、中国語の“主要”は連用修飾語として使われることが多いと言える。これは前述した先行研究のうち、特に梁玥（2008）の以下の結論に反するものである。

- ①中国語の形容詞は連体修飾用法より、述語になることが多い。
- ②日本語の形容詞はほとんど連用修飾語として使えるが、中国語の形容詞は連用修飾語として使えるものが非常に少ない。

また、連体修飾機能を担う「主要な」と“主要的”は対応するが、BCC コーパスを対象とした調査とは別に、「中日対訳コーパス」で「主要」の出現例を調べたところ、連用修飾機能を担う“主要是”は「主要に」ではなく、「主として」「主に」として訳される傾向があることがわかった。

次に、両言語における「主要+名詞」というパターンを見てみよう。各コーパスの検索結果先頭から 100 例を分析対象とし、「主要」（“主要”）と組み合わせて使う名詞を抽出した。その結果、日本語において最も多く使われる上位 5 位は「主要国」（522）、「主要都市」（156）、「主要株主」（144）、「主要産業」（64）、「主要企業」（60）であることがわかった。一方で、中国語において最も多く使われる上位 5 位は“主要内容”（14998），“主要任务”（8088），“主要问题”（6919），“主要症状”（3139），“主要作用”（2440）であることが明らかになった。

さらに、日本語で頻繁に使われているパターンが中国語でも頻繁に使われているか否かという点と、反対に、中国語で頻繁に使われているパターンが日本語でも頻繁に使われているか否かという点を調べた。結果として、日本語における出現順位上位 5 位は中国語でも頻繁に使われていることがわかった。但し、日本語では、「主要国（522）>主要都市（156）>主要株主（144）>主要産業（64）>主要企業（60）」という順番であるが、中国語では、「主要城市（2569）>主要国（1050）>主要产业（249）>主要股东（145）>主要企业（136）」という順番になる。このように、両言語での調査結果には若干の異なりがあるが、それほど大きなずれではないと考えられる。一方で、中国語における出現順位上位 5 位を日本語コーパスで検証した結果には、大きな差異が見られた（表 2）。

表 2 中国語における出現順位上位 5 位のコロケーション情報と対応する日本語の比較

| 中国語／<br>日本語 | 主要内容／<br>主要内容 | 主要任务／<br>主要任务 | 主要问题／<br>主要问题 | 主要症状／<br>主要症状 | 主要作用／<br>主要作用 |
|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 出現数         | 14998/3       | 8088/9        | 6919/7        | 3139/5        | 2440/0        |

表 2 に示す通り、中国語で頻繁に使われている“主要内容”などのような言い方は、日本語ではあまり使われていない。仮に使われるとしても、後述する「な」を伴う形式でのみ使われる傾向が見られる（表 3）。実際、中国語の“主要内容”“主要的內容”と比べ、日本語の「主要内容」「主要な内容」の使用頻度は極めて低いことが分かる。一方、「主（おも）な内容」で検索した結果は一定数用例が確認される（162

例)。このことから、“主要”と対応するのは「主要」ではなく、「主（おも）な」であることが推測される。

以上の調査結果から、前述した「主要」と“主要”が対応しているという、辞書や先行研究における記述はある程度裏付けられると言える。一方で、中国語の“主要”は「主要」よりも修飾範囲が広いことがわかる。中国語の“主要”は抽象的な名詞（内容、任務、問題など）も具体的な名詞（都市、国、産業など）も修飾できるが、特に前者の使い方が多い。それに対して、日本語の「主要」は主に具体的な名詞（国、都市、株主など）のみを修飾する。また、中国語の“主要”と対応するのは、連用修飾機能を担う際はもちろん、「主に」「主として」であるが、連体修飾機能を担う際にも、「主要」より「主な」のほうが多いと言える。

なお、使用頻度の高いコロケーションにおいて、中国語の“的”または日本語の「な」が省略されていた用例の数を表3にまとめる。

表3 “的”と「な」の使用状況

| 中国語<br>（“的”がない場合） | 日本語<br>（「な」がない場合） | 中国語<br>（“的”が付く場合） | 日本語<br>（「な」が付く場合） | 日本語      |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|----------|
| 主要内容              | 主要内容              | 主要的内容             | 主要な内容             | 主（おも）な内容 |
| 14998             | 3                 | 132               | 13                | 162      |
| 主要任务              | 主要任務              | 主要的任务             | 主要な任務             | 主（おも）な任務 |
| 8088              | 9                 | 230               | 10                | 16       |
| 主要问题              | 主要問題              | 主要的问题             | 主要な問題             | 主（おも）な問題 |
| 6919              | 7                 | 514               | 19                | 5        |
| 主要症状              | 主要症状              | 主要的症状             | 主要な症状             | 主（おも）な症状 |
| 3139              | 5                 | 29                | 2                 | 30       |
| 主要作用              | 主要作用              | 主要的作用             | 主要な作用             | 主（おも）な作用 |
| 2440              | 0                 | 230               | 0                 | 5        |

形容詞は修飾語として名詞を修飾する機能を持っている。現代中国語の形容詞は通常、修飾される名詞の前に置かれる。その際の構文は大きく分けて、直接名詞に接続するものと後ろに“的”を置くものがある。表3から分かるように、中国語の“主要”では直接名詞に接続するものが多い。一方、日本語の「主要」では、「主要症状」以外、ほぼ「な」が必要であることが窺える。このように、“的”及び「な」の省略が可能か不可能かという点でも両者の間に相違が見られる。

#### 4. おわりに

本稿では、コーパス調査に基づき、四つの観点から「主要」と“主要”について分析を試みた。その結果は次のようにまとめることができる。

- I 意味：“主要”のほうが「主要」より表せる意味範疇が広い
- II 文法機能：

表4 「主要」と“主要”の文法機能

|     | 連体修飾機能 | 連用修飾機能 | 述語機能 |
|-----|--------|--------|------|
| 日本語 | ある※    | ある     | ある   |
| 中国語 | ある     | ある※    | ある   |

※は最も多く使用されている機能を示す。

- III ほかの共起しやすい漢語：

表5 「主要」「主要」と共起しやすい漢語

|     |                |
|-----|----------------|
| 日本語 | 国、都市、株主、産業、企業  |
| 中国語 | 内容、任务、问题、症状、作用 |

- IV 「な」「的」の省略：

日本語では「な」が省略され、直接名詞と接続して使われることもあるが、基本的には「な」が付く。一方、中国語では“的”はしばしば省略される。

#### 5. 今後の課題

本稿ではこれまで述べていないが、ほかにもいくつか面白い現象を見つけた。例えば、「残念」と対応する“残念”は、直感的には現代中国語に存在しないと思われる。実際、筆者の周囲では聞かないうえ、『現代汉语词典』においても記述が見られない。しかし、BCC コーパスで調べたところ、現代中国語においても日本語の「残念」と同じような意味で“残念”が使われていることが分かった。今後は、このような新出語の誕生や発展について、分析を試みたいと思う。

参考文献

【日本語文献】

- 淡島成高（1987a）「中国系日本語学習者に見られる漢語誤用例とその分析—1—」『麗澤大学紀要』44 麗澤大学 pp.175-194
- 淡島成高（1987b）「中国系日本語学習者に見られる漢語誤用例とその分析—2—」『麗澤大学紀要』45 麗澤大学 pp.143-165
- 安藤美保（2012）「『全国日語専業八級考試』の作文から見る共起表現の習得状況—名詞と形容詞／形容動詞の共起表現を対象に—」『日语学习与研究』3 『日语学习与研究』杂志社 pp.76-84
- 大塚秀明（1990）「日中同形語について」『外国語教育論集』12 筑波大学外国語センター pp.327-335
- 大河内康憲（1992）「日本語と中国語の同形語」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』くろしお出版 pp.179-215
- 何宝年（2011）「語構成から見た中日同形語」『JSL 漢字学習研究会誌』3 JSL 漢字学習研究会 pp.43-50
- 施建军（2009）「コーパス言語学の立場から中日同形同義動詞意味用法に関する一考察—“注目”を例にして—」『日本学研究』19 上海外语教育出版社 pp.17-25
- 施建军（2014）「コーパス言語学の立場から中日同形語の分類を考え直す」『外语教育研究』3 『外语教育研究』编辑部 pp.12-17
- 日本文化庁（1978）『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局
- 梁玥（2008）「中日形容詞の文法的機能に関する対照研究」大连外国语学院硕士论文
- 菱沼透（1980）「中国語と日本語の言語干渉—中国人学習者の誤用例—」『日本語教育』42 日本語教育学会 pp.58-72

【中国語文献】

- 洪洁（2016）<中日同形类义词的互译与意义相似度研究> 汉日语言对比研究论丛（7） pp.32-41
- 施建军・洪洁（2013）<汉日同形词意义用法的对比方法研究> 外语教学与研究 45（4） pp.531-542
- 施建军・洪洁（2017）<基于语义组合关系的汉日同形词意义对比研究> 汉日语言对比研究论丛（8） pp.236-246
- 王晓（2004）<关于日语教学中的中日同形词> 日汉比较研究（增001） pp.38-41
- 翟东娜（2000）<浅析汉日同形词的褒贬色彩语社会文化因素> 日语学习与研究（2） pp.32-35
- 彭广陆・守屋三千代（2015）《综合日语第一册》 北京大学出版社

【辞書類】

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之編（2017）

『新明解国語辞典』（第七版）三省堂

中国社会科学院语言研究所词典编辑室編（2016）『现代汉语词典』（第七版）商务印书馆

【コーパスデータ】

現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）（通常版）国立国語研究所

現代汉语语料库（BCC コーパス）北京语言大学

中日対訳コーパス（第一版）北京日本語学研究センター

ヒョウ ゲン／江西財經大学

（2018年10月28日受理）